

治療関連テキストの非医療従事者による読解

—読者のライフヒストリーに着目して—

The reading of the text related to the treatment by the person not engaged in the medical cause: Focusing on the life history of the reader

学籍番号：201321662

氏名：若松 ちひろ

CHIHIRO WAKAMATSU

インフォームドコンセントやセカンドオピニオン外来の広まりに伴い、患者は自らの治療について主体的な判断を迫られるようになった。しかし日本においては一般人向け治療関連テキストの整備が不足している。本研究は治療関連テキストを素材に、非医療従事者である一般人の文章読解力及びその形成の背景と、内容読解との相関を明らかにする。

特定の疾患に関するテキストを改善し、その読者に対してアンケート調査を行った、この分野の代表的研究である酒井（2011）では、読み手の読解力などの特性で内容理解に差が現れる可能性が示唆されているが、読解力形成の背景には言及していない。

そこで本研究では特に読者のライフヒストリーに着目し、個々のテキストの内容理解に影響を与える一般人の独立変数として、社会的属性、読解力、ライフヒストリー関連項目（学習・教育経験、健康医療情報に対する態度、読み慣れている文章のジャンル、読解のスタイルの形成過程、興味分野、本人または周囲の人の病歴等）を設定した。

本研究は、その疾患の病歴を持つ人が一定数存在すること、病歴を持たない人でもある程度の認知度があることを理由に、アトピーを事例とする。また、調査で扱うテキストは2009年から2010年に発刊されたアトピー性皮膚炎診療・治療ガイドラインを設定した。被調査者は筑波大学・筑波技術大学の諸学類に求め、合計10名とした。調査は①解析ツールを用いたテキストの難易度の測定、②『論理トレーニング』（野矢 2001）による被調査者の読解力の測定、③読解力に影響するライフヒストリー、④①で調査したテキストに対する理解度、以上四つの調査を行うが、特に③のライフヒストリーにかかわる質的調査が本研究の主たる調査である。分析では④と、②及び③との相関に焦点を当てる。

調査の結果、理系とされる学類に所属している人は、文章を批判的に読み、内容理解のレベルが高く、テキストにおける説明の不用意な省略箇所を示した。また専門用語を完全に理解できなくても漢字からある程度類推できた。文系とされる学類に所属しさらに頭の中で文章を朗読するスタイルの人は、専門用語の読み方が分からない箇所での読みの速度が落ち、ストレスを感じる傾向があった。他方アトピーではないものの一つの疾患の病歴が長い人は専門用語を自分で調べる姿勢を見せ、テキストが初心者にもわかることを目的に書かれていることを的確に指摘し、テキストの難しさに対するストレスなく読み進めた。

以上より、治療関連テキストの非医療従事者である一般人による読解には、ライフヒストリーの中でもこれまでの学習・教育経験や、読解のスタイルの形成過程が影響することが明らかになった。また、テキストで主題となる疾患（この場合アトピー）以外であっても個人の持つなんらかの疾患の病歴が強く影響を与える場合があることが示された。

研究指導教員：後藤嘉宏

副研究指導教員：大庭一郎